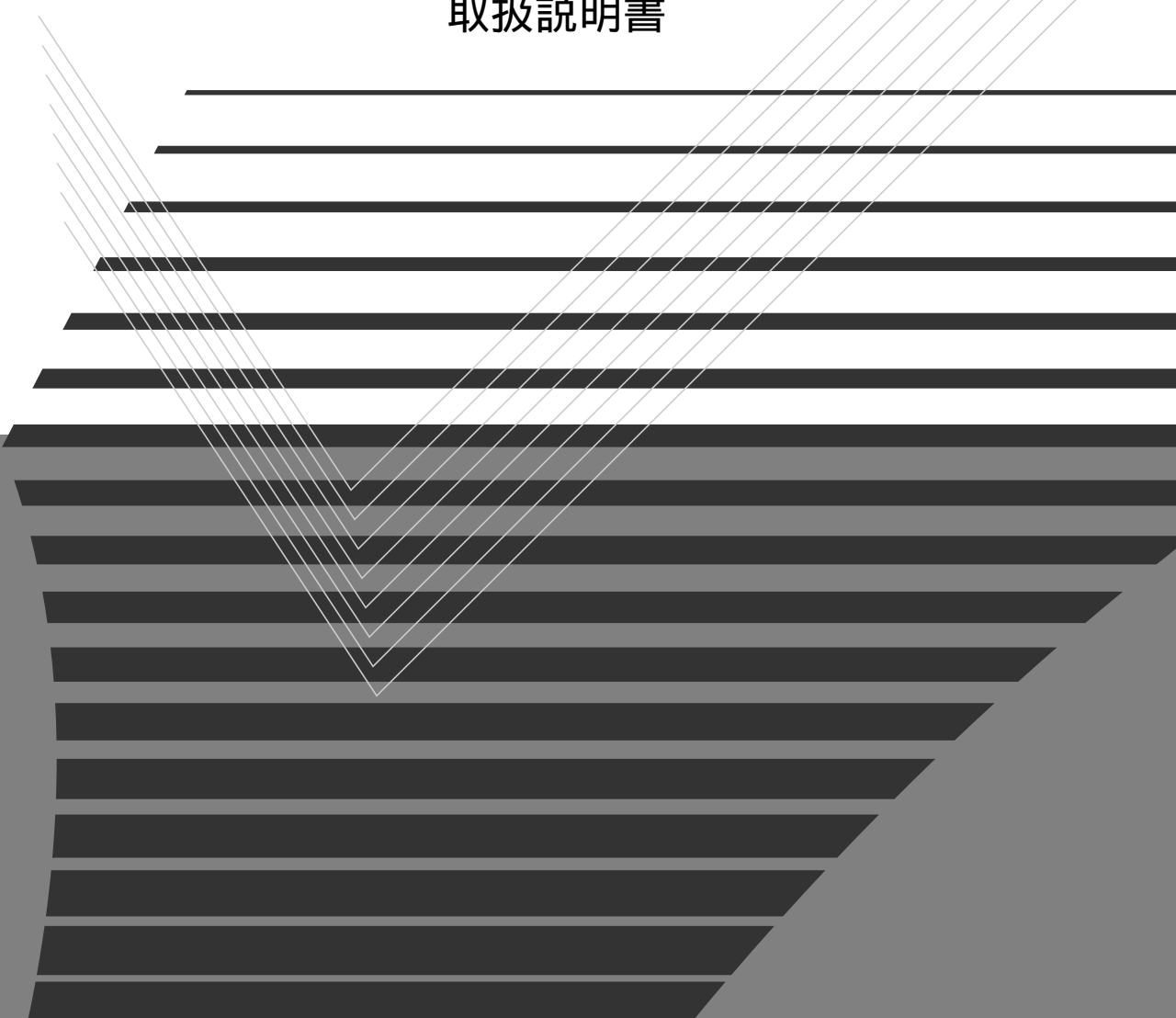




mLAN AUDIO/MIDI PROCESSOR

mLAN8P

取扱説明書



安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもおお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。

⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

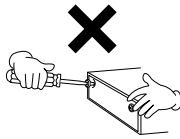
* お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
感電や火災、または故障の原因になります。



電源アダプターコード / プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流 100V を使用する。
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



電源アダプターは、必ず指定のもの (PA-5C) を使用する。
(異なった電源アダプターを使用すると) 故障、発熱、発火などの原因になります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

注意

この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。



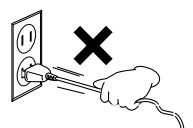
電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源アダプターコードに重いものをのせない。

電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。



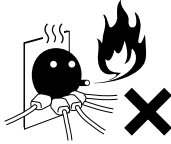
電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源アダプターコードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。





タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電、ショート、発火などの原因になります。



他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたら切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小(0)にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。
感電または機器の損傷のおそれがあります。



直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。



テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。



本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック/ゴム製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。



本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



作成したデータの保存について



作成したデータは、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは付属のアプリケーションでコンピューターに保存されることをおすすめします。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。



これは日本電子工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、楽しい生活環境を守りましょう。

ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

はじめに

このたびはヤマハ mLAN8P をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
mLAN8P は、ハイパフォーマンスシリアルバス「IEEE1394」を採用した音楽のためのデジタルネットワーク、「mLAN」に対応し、これまでのように複雑な配線を何度もやり直すことなく、オーディオ /MIDI 信号によるネットワークを自由に構築することを目的としたインターフェースです。

現在使用しているオーディオ /MIDI 機器と、今後普及してくる「IEEE1394」や「mLAN」機器とのシステムをスムーズに組むことができます。またミキサー機能も備えていますので、音楽制作環境を強力にサポートすることができます。

mLAN8P の優れた機能を使いこなしていただくために、この取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。また、ご一読いただいた後も不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管されますよう重ねてお願い申し上げます。

パッケージの内容

- ・ mLAN8P 本体
- ・ 電源アダプター
- ・ mLAN Tools(CD-ROM)
- ・ IEEE1394 ケーブル(2.0m)
- ・ 取扱説明書(本書)
- ・ mLAN ガイドブック
- ・ mLAN Tools インストールガイド
- ・ 保証書 / 愛用者カード

同梱の CD-ROM について

mLAN8P には、mLAN8P を使う際に役立つソフトウェアを納めた CD-ROM が同梱されています。ソフトウェアには、mLAN8P に接続された各電子機器間のオーディオ /MIDI 信号の経路をコンピューター上から設定するための「mLAN Patchbay」や mLAN8P が持つミキサー / エフェクト機能を、コンピューターを使ってコントロールするための「mLAN Mixer」などが含まれています。詳細については別冊の「mLAN Tools インストールガイド」をご参照ください。

この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって実際の仕様と異なる場合があります。

「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。

この取扱説明書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに	4
パッケージの内容	4
mLAN8P の特長	6
各部の名称と機能	8
接続について	12
電源のオン / オフ	15
各接続機器の電源を入れる順番	15
mLAN8P の内部構成	16
機能ツリー図	18
mLAN 機器間での入出力の設定 (操作の流れ)	20
各モードの機能	24
Mixer 入力部の設定 [Mixer1/2] - [1] ~ [12]	24
Mixer 出力部の設定 [Mixer2] - [AUX1/2]	27
Mixer 出力部の設定 [Mixer2] - [L][R]	28
MIDI 部の設定	29
UTILITY 部	31
LED/LCD メッセージ	37
仕様	38
索引	39
ユーザーサポートサービスのご案内	42
保証とアフターサービス	43

mLAN8P の特長

mLAN による高速データ転送

mLAN とは、業界標準規格であるハイパフォーマンス シリアルバス「IEEE1394」を採用した音楽のためのデジタルネットワークです。これまでよりも簡単に、しかもより高機能なシステムを組むことができます。mLAN についての詳細は別冊の「mLAN ガイドブック」をご覧ください。

従来の MIDI/ オーディオ機器の信号を mLAN フォーマットに変換

mLAN に対応していない MIDI 機器やオーディオ機器を mLAN のシステムに接続できます。以下の信号を相互に変換することができます。

- ・ mLAN MIDI 信号 ↔ 従来の MIDI 信号
- ・ mLAN オーディオ信号 ↔ 従来のアナログオーディオ信号
- ・ mLAN オーディオ信号 ↔ 従来のデジタルオーディオ信号
- ・ 従来のアナログオーディオ信号 ↔ 従来のデジタルオーディオ信号

12 チャンネルミキサー機能

インターフェースとしての機能はもとより、12 チャンネルのデジタルオーディオミキサーとしての機能も充実しています。

(NOTE) mLAN Mixer で操作しているとき (mLAN Mixer の動作中) は、本体から設定を変えることはできません。

充実したデジタルエフェクト

音楽制作には欠かせない高音質なエフェクト*1 を搭載しています。

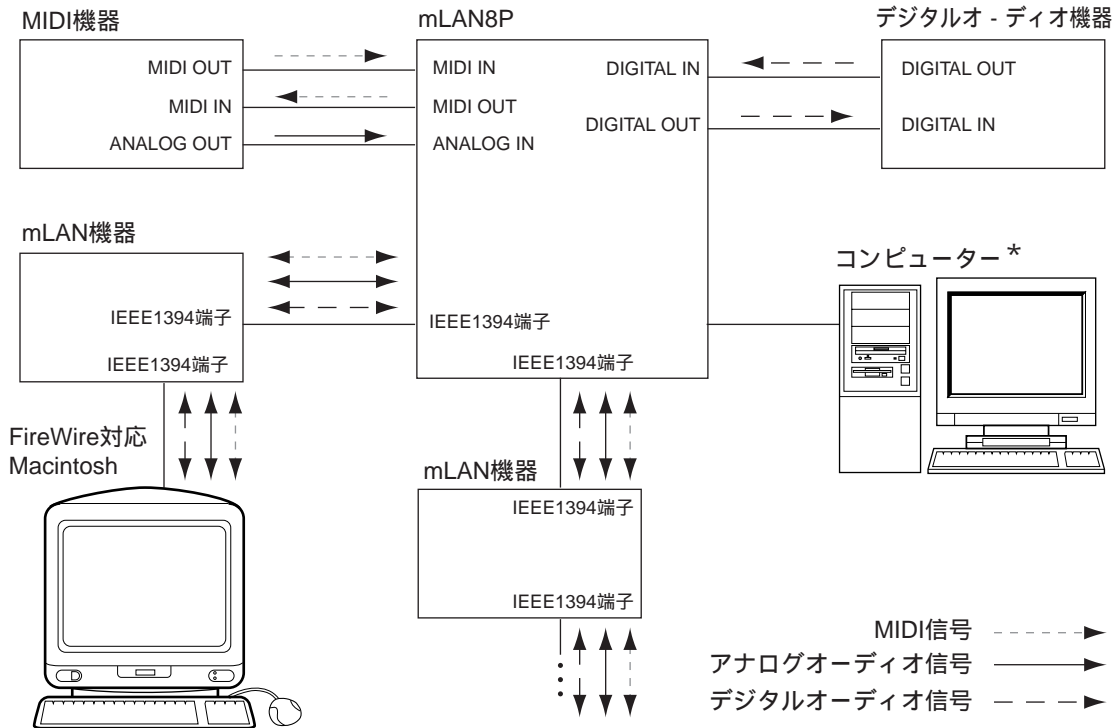
サンプリングレ - トコンバ - タ - 内蔵

DAT、CD などサンプリングレート*2 の異なる機器間でのデータの送受信を可能にします。

*1. 内蔵エフェクターの設定は付属のアプリケーション「mLAN Mixer」を使って行ないます。詳しくは、mLAN Mixer マニュアル (電子マニュアル) をご参照ください。

*2. 48kHz、44.1kHz のサンプリングレートに対応しています。

mLAN8P の基本コンセプト



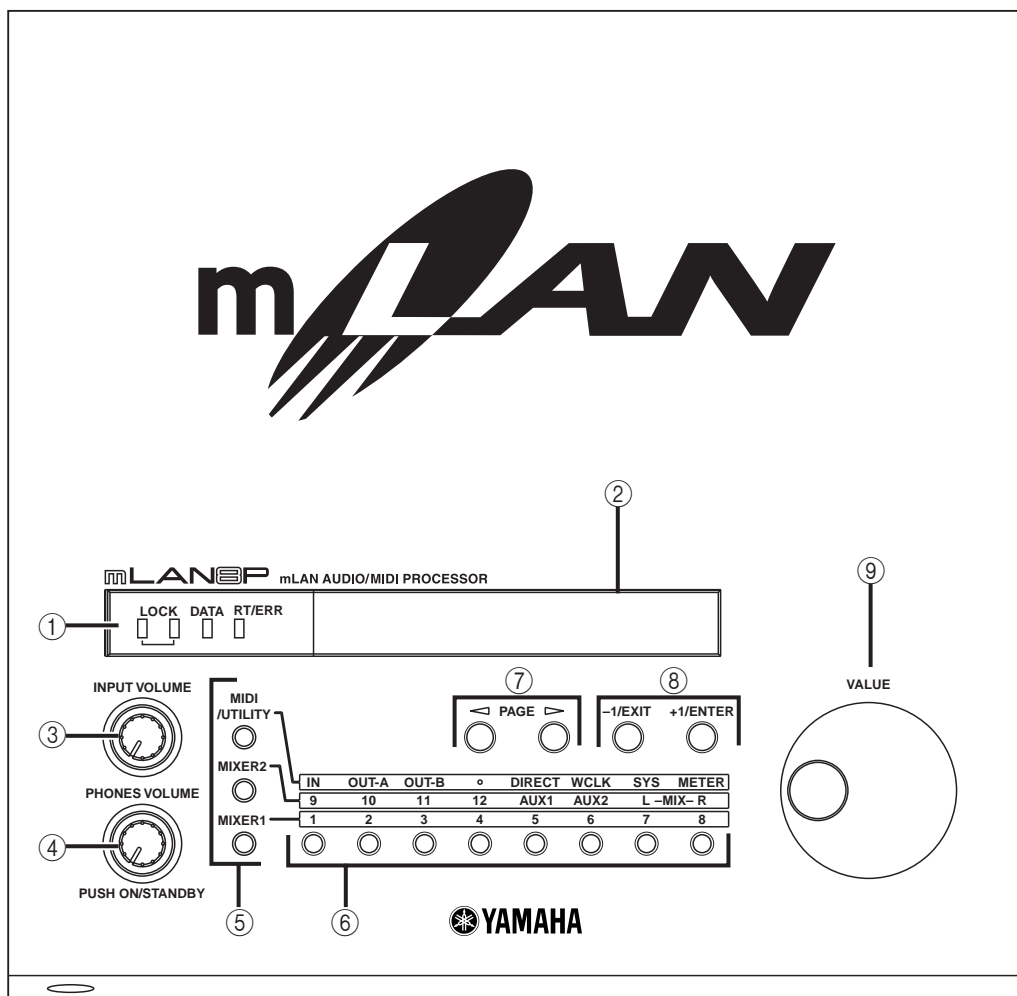
上の図は mLAN8P を中心とした各種信号の流れをイメージで表したものです。各機器からのオーディオ / MIDI 信号は、mLAN8P を経由することで自由に入出力先を設定できます。特に mLAN 機器は、1 本の IEEE 1394 ケーブルで信号の入出力ができる上、配線し直すことなく接続を設定 / 変更できるので接続順も気にする必要がありません。

(NOTE) mLAN8P 本体での操作には制約があります。上の図では、mLAN 機器から mLAN 機器へ MIDI 信号の送受信をする場合、mLAN8P 本体では設定できません。この場合は付属の「mLAN Patchbay」を使ってパソコン上で設定してください。

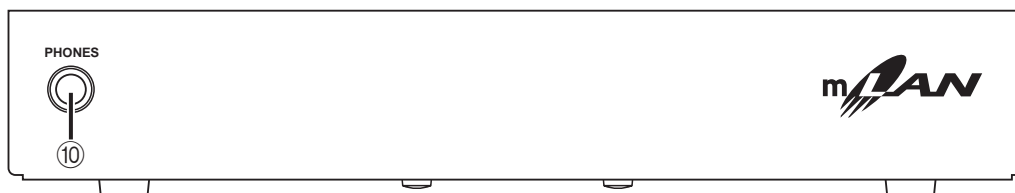
* Windows で付属のソフトウェアを使用する際やハ - ドウェアのパ - ジョンアップをする際にシリアル接続を行ないます。Macintosh を使用する場合は、mLAN8P の mLAN 端子と Macintosh の FireWire ポートを IEEE 1394 ケーブルで接続してください(「mLAN 機器との接続 (P.13)」参照)。

各部の名称と機能

トップパネル

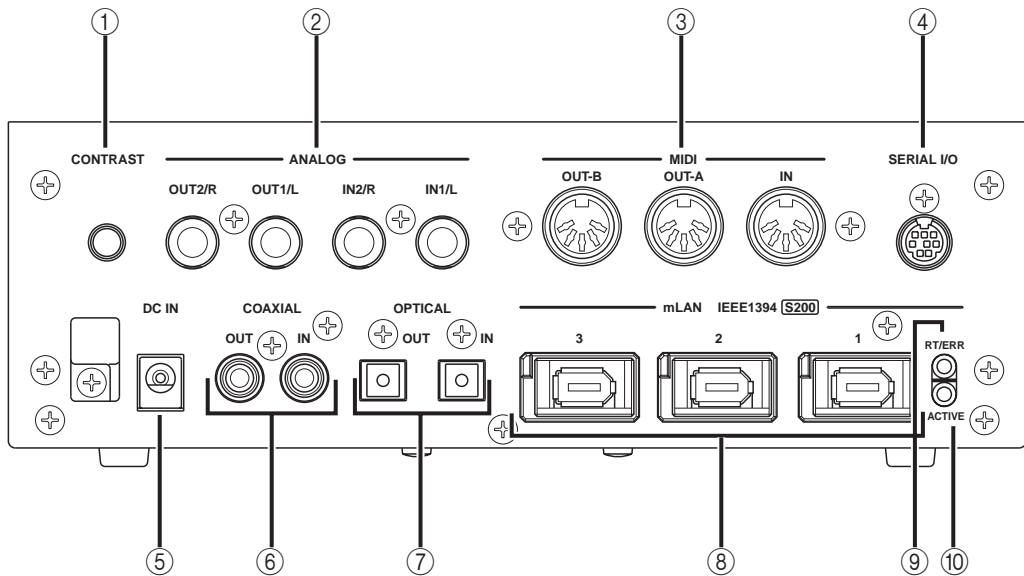


フロントパネル



- ① LED
LED は以下の意味を示します。
- 【LOCK】**
他の機器からのワードクロックを正常に受信している状態をロックと言います。
左のLOCKはDigital Inから入力した信号、右のLOCKはmLAN信号の状態(ステータス)を表示します。
緑点灯 : ロック
消灯 : アンロック(ケーブルが接続されていない、ワードクロックが正しくないなど)
- 【DATA】**
緑点灯 : 正常時
赤点灯 : バス上の機器の接続/取り外しやコネクションの変更、ワードクロックの非同期などにより、音が途切れたとき
- 【RT/ERR】**
緑点灯 : mLAN8P 本体がルートのとき
赤点灯 : エラー発生時
消灯 : 上記以外
* リアパネルの右端にも同じLEDがあります。
- (NOTE)** エラー発生時の表示については「LED/LCDメッセージ(P.37)」をご参照ください。
- ② LCD(液晶ディスプレイ)
さまざまなデータや情報が表示されます。
- ③ INPUT VOLUME(インプットボリューム)
ANALOG IN からのオーディオ入力信号の音量を調節します。
- ④ ON/STANDBY(オン/スタンバイ)、PHONE VOLUME(ヘッドフォンボリューム)
電源のオン/スタンバイ(オフ)を行いません。ツマミを押してオン/スタンバイを切り替えます。また、このツマミを回すことでヘッドフォンの音量を調節します。
- !** 電源アダプターが接続されている状態では、STANDBY のときも微電流が流れています。mLAN8Pを長時間使用しないときは、必ず電源アダプターを抜いてください。
- ⑤ モードボタン
チャンネル/ファンクションボタンとの組み合わせで各種設定項目を選択します。
- ⑥ チャンネル/ファンクションボタン
モードボタンとの組み合わせで各種設定項目を選択します。
- 【MIDI(ミディ)】** モード時
[IN][OUT A][OUT B] : 各MID端子に接続されている機器の接続先の設定を行いません。
- 【UTILITY(ユーティリティー)】** モード時
[DIRECT] : DIRECT OUT(ダイレクトアウト)の設定を行いません。
[WCLK](WORD CLOCK) : ワードクロックに関する設定を行いません。
[SYS](SYSTEM) : システムの設定を行いません。
[MTER](METER) : レベルメーターを表示します。
- 【Mixer1(ミキサー1)】** モード時
[1] ~ [8] : ミキサー入力部の各入力チャンネルの設定を行いません。
- 【Mixer2(ミキサー2)】** モード時
[9][10] : Digital In からの入力チャンネルの設定を行いません。
[11][12] : A/D Inからの入力チャンネルの設定を行いません。
[AUX1][AUX2] : AUX1/2の設定を行いません。
[L][R] : 各出力先の設定を行いません。
- ⑦ ◀PAGE▶(ページ)ボタン
パラメーターの項目をその並びに従って前(▶)、後(◀)に移動します。
- ⑧ +1/ENTER、-1/EXIT
パラメーターの値を増加(+1)、減少(-1)します。押し続けると連続的に変化します。また、設定を変更するときの確認画面ではENTER=実行、EXIT=キャンセルとして使います。
- ⑨ VALUE(バリュー)ダイヤル
パラメーターの値を連続的に増加、減少します。値を大幅に変更する場合などに使用します。
- ⑩ PHONES(フォーン)ジャック
ヘッドフォンを接続します。ANALOG OUT 1/L、2/Rと同じ音が出力されます。

リアパネル



- ① CONTRAST(コントラスト)
トップパネルのLCD(液晶ディスプレイ)のコントラストを調整します。
- ② ANALOG IN/OUT(アナログイン/アウト) 端子
アナログオーディオ信号の入出力用の端子です。ANALOG IN から入力した信号は内部でデジタル処理されますので、それぞれA/D In、D/A Out とも言います。
- ③ MIDI IN/OUT(ミディイン/アウト) 端子
外部 MIDI 機器と接続する端子です。MIDI 情報を送/受信することができます。
- ④ SERIAL I/O(シリアルイン/アウト) 端子
mLAN8Pとコンピューターを直接シリアルケーブルで接続する端子です。Windows でハードウェアのバージョンアップやmLAN Patchbay/mLAN Mixer を使用する際に、mLAN8Pとコンピューターを接続するのに使用します。MIDI/オーディオ信号の入出力には使用しません。接続についてはP.13 をご参照ください。
- ⑤ DC IN(ディーシーイン) 端子
付属の電源アダプターPA-5Cを接続します。
 - ❗ PA-5C 以外の電源アダプターは絶対に使用しないでください。他の電源アダプターを使用すると火災や故障の原因となり、たいへん危険です。

- ⑥ COAXIAL IN/OUT(コアキシャルイン / アウト) 端子
デジタルオーディオ信号の入出力用の端子です。デジタルオーディオ用ピンケーブルを接続します。

NOTE COAXIAL IN端子とOPTICAL IN端子のどちらを使用するか選択します(P.33)。

⑦のOPTICAL IN/OUT とまとめて、DIGITAL IN/OUT とも言います。

- ⑦ OPTICAL IN/OUT(オプティカルイン / アウト) 端子
デジタルオーディオ信号の入出力用の端子です。光ケーブルを接続します。

! オプティカル端子には、端子を保護する小さなフタが付いています。オプティカル端子を使用する場合には、このフタを取り外してください。また、オプティカル端子を使用しない場合には、必ずこのフタを付けておいてください。

NOTE COAXIAL IN端子とOPTICAL IN端子のどちらを使用するか選択します(P.33)。

⑥のCOAXIAL IN/OUT とまとめて、DIGITAL IN/OUT とも言います。

- ⑧ mLAN(IEEE1394) 端子
mLAN製品やIEEE1394対応製品と接続する端子です。IEEE1394標準ケーブル(6ピン)で接続します。各端子の左上にはLEDが装備されています。LEDは以下の意味を示します。
緑点灯 : 本体または接続されている機器がリーフノードのとき
消灯 : 未接続
赤点灯 : ケーブルを抜いたとき、接続先以外で音が途切れる場合

- ⑨ RT/ERR LED
LEDは以下の意味を示します。
緑点灯 : mLAN8Pがルートのとき
橙(オレンジ)点灯 : エラ - 発生時
(IEEE1394バス関連)
赤点灯 : エラ - 発生時(その他)
消灯 : 上記以外
* トップパネルにも同じものがあります。

NOTE エラ - 発生時の表示については「LED/LCDメッセージ(P.37)」をご参照ください。

- ⑩ ACTIVE LED
LEDは以下の意味を示します。
青点灯 : 中継機能が働いているとき
消灯 : 中継機能が働いていないとき

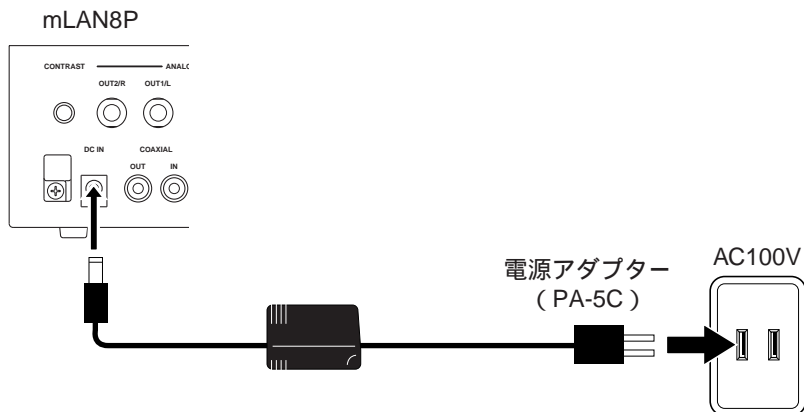
NOTE mLAN8Pは、電源を切るとバスの中継としての機能もなくなりますので、電源のオン(青点灯)/オフ(消灯)に対応しています。

接続について

ここでは、mLAN8Pを使って、音源やキーボードなどの mLAN/MIDI 機器とコンピューターを接続する方法を説明します。

(1) 電源アダプターの接続

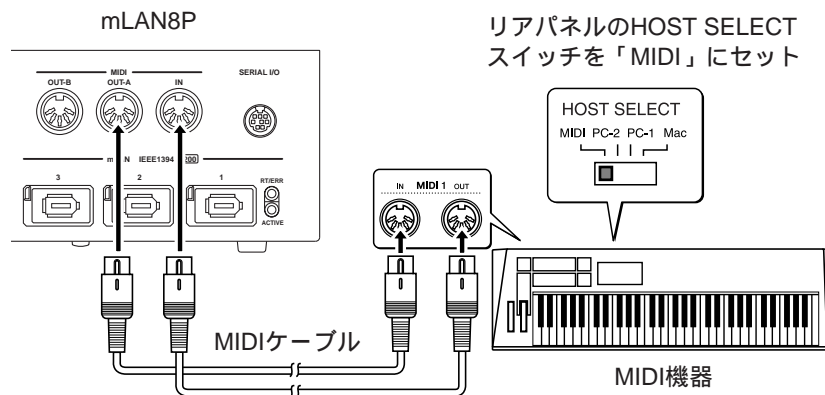
同梱の電源アダプター(PA-5C)のプラグを本体リアパネルの DC IN に接続し、電源アダプターをコンセント(AC 100V)に接続します。電源アダプターを抜く場合は必ず本体の電源をオフ(スタンバイ)にしてから抜いてください。



- ❗ 電源アダプターは必ず付属の PA-5C をお使いください。他の電源アダプターを使用すると火災や故障の原因となり、たいへん危険です。また、長時間ご使用にならない場合は必ずコンセントから外してください。
- ❗ 電源は必ず AC100V を使用してください。

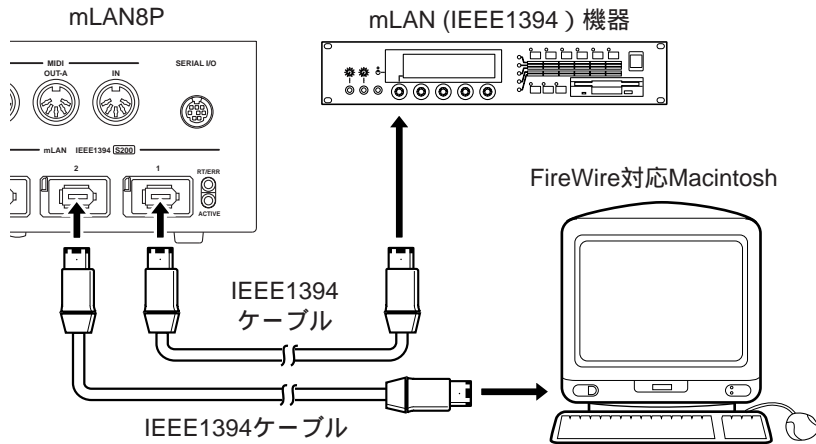
(2) MIDI 機器との接続

MIDI 機器の MIDI IN 端子と mLAN8P の MIDI OUT 端子を別売の MIDI ケーブルで接続します。同様に MIDI 機器の MIDI OUT 端子と mLAN8P の MIDI IN 端子を接続します。このとき、MIDI 機器側の HOST SELECT スイッチは「MIDI」に設定します。



(3) mLAN(IEEE 1394) 機器との接続

mLAN(IEEE 1394) 機器の mLAN(IEEE 1394) 端子と mLAN8P の mLAN(IEEE 1394) 端子を IEEE 1394 標準ケーブル (6 ピン) で接続します。このとき、mLAN(IEEE 1394) 機器と mLAN8P とともに、電源を切っておく必要はありません。

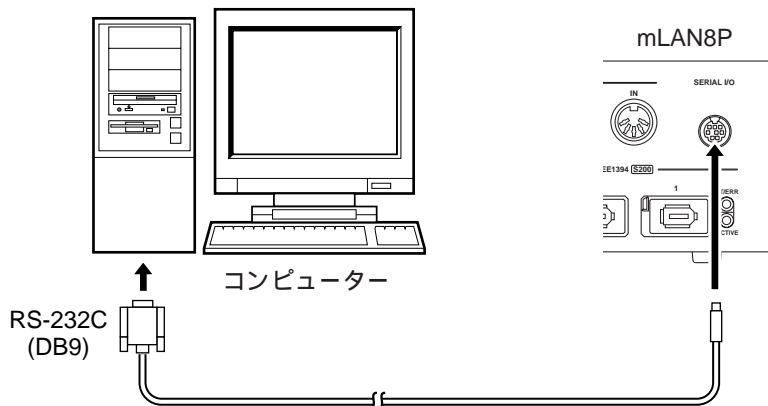


(4) Windows との接続 (シリアル接続)

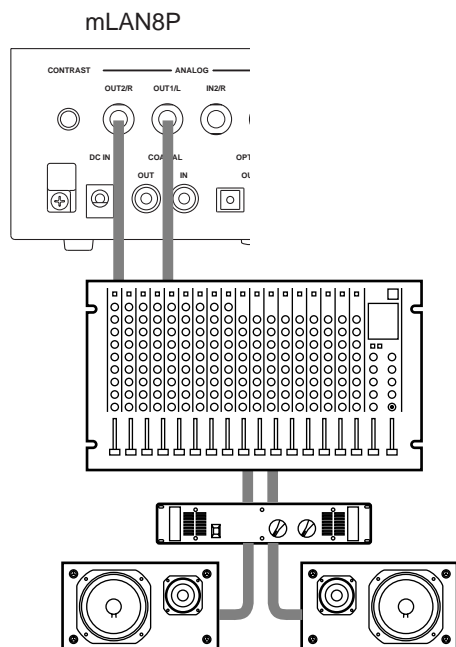
コンピューターの RS232C 端子と mLAN8P の SERIAL I/O 端子をシリアルケーブルで接続します。このとき、mLAN8P とコンピューターの電源は必ず切っておいてください。

(NOTE) Windows で付属のソフトウェアを使用する際にシリアル接続を行いません。Macintosh を使用する場合は、mLAN8P の mLAN 端子と Macintosh の FireWire ポートを IEEE 1394 ケーブルで接続してください (「mLAN 機器との接続」参照)。

別売のシリアルケーブル YAMAHA CCJ-PC2 (市販品の場合は、D-SUB9P MINIDIN8P クロスケーブル) をご使用ください。



(5) アナログオーディオ機器 (アンプ、スピーカー、ミキサーなど) との接続
 ANALOG OUT 1/L 端子、2/R 端子をミキサーの 2 つのチャンネルに接続します。

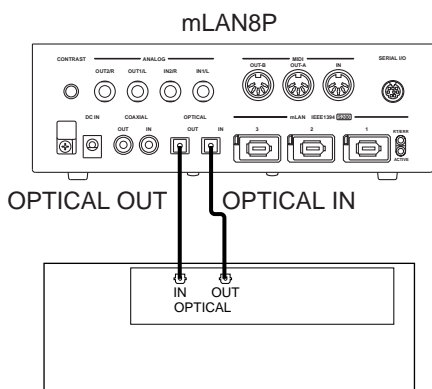


(6) デジタルオーディオ機器との接続

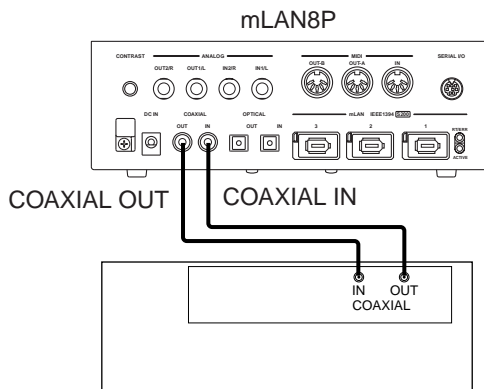
CD プレーヤーや MD プレーヤーなどの機器とデジタルオーディオ用ケーブルで接続します。

• OPTICAL 端子を使う場合

• COAXIAL 端子を使う場合



デジタルオ - ディオ機器

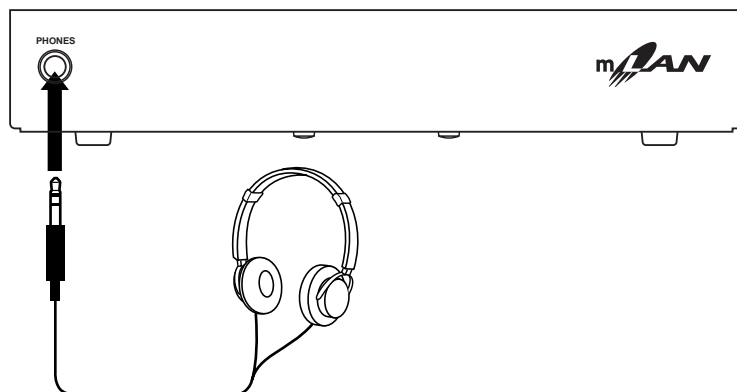


デジタルオ - ディオ機器

(NOTE) COAXIAL IN 端子と OPTICAL IN 端子のどちらを使用するか選択します (P.33)。

(7) ヘッドフォン

mLAN8P 前面の PHONES 端子にヘッドフォンを接続すると、ANALOG OUT 1/L 端子と 2/R 端子 (Stereo Mix) に出力される信号をモニターすることができます。

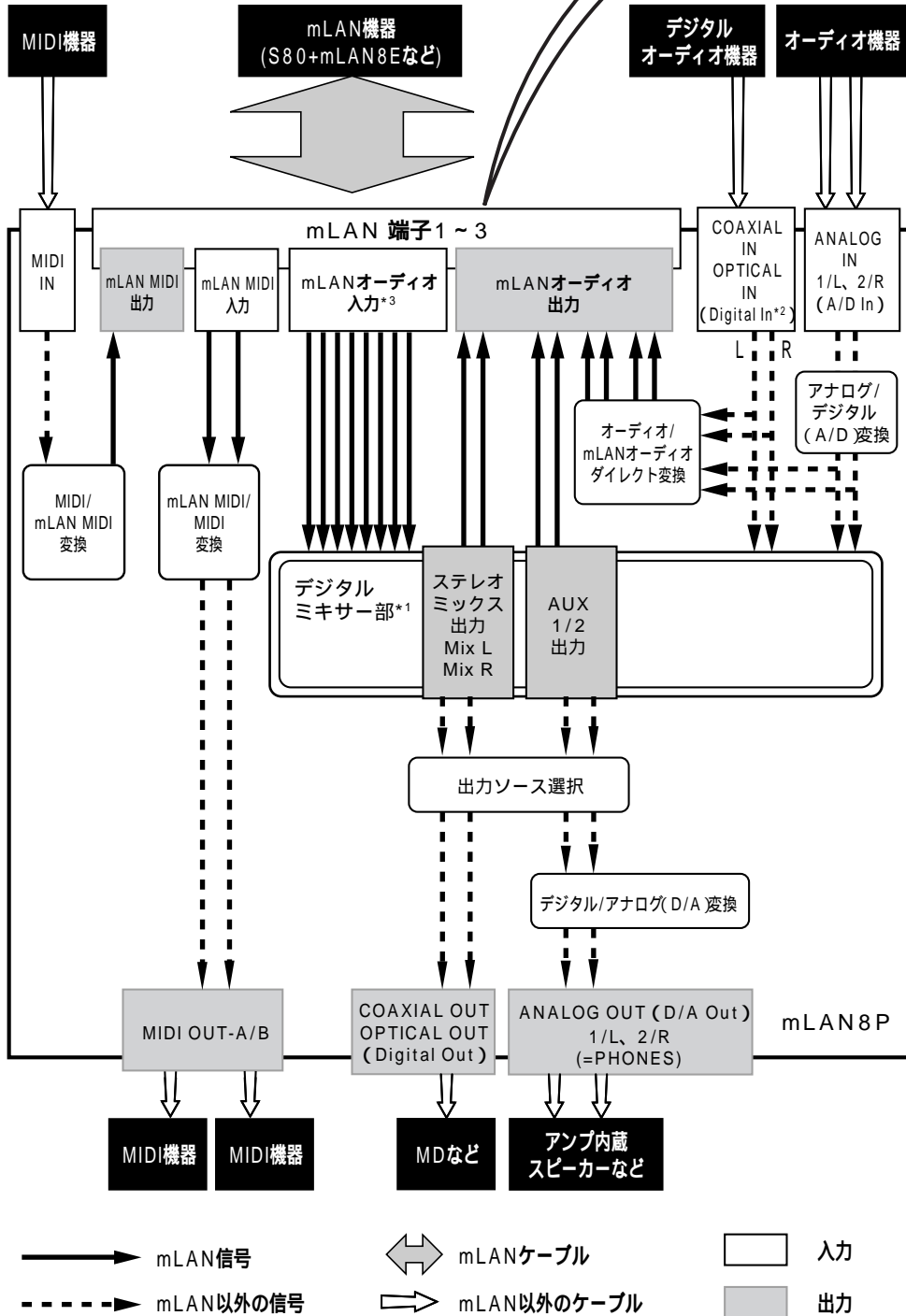


電源のオン / オフ

各接続機器の電源を入れる順番

mLAN8P と必要な機器の接続が完了したら、mLAN8P と外部オーディオ装置のボリュームが絞られていること (0 になっていること) を確認し、MIDI 送信側の機器 MIDI 受信側の機器 外部オーディオ装置 (ミキサー アンプ) の順で電源を入れてください。また、電源を切る場合は外部オーディオ装置のボリュームを下げ、逆の順番で切ってください。mLAN による接続の場合は、電源を入れる / 切る順番を気にする必要はありません。

mLAN8P の内部構成



mLANプラグ

mLAN出力プラグ

(mLAN Patchbay上の“From”に表示)

mLANオーディオ

St Mix L (ステレオミックスL)

St Mix R (ステレオミックスR)

AUX1

AUX2

*Dig In L (Digital In L)

*Dig In R (Digital In R)

*A/D In L (ANALOG In L)

*A/D In R (ANALOG In R)

mLAN MIDI

*IN (MIDI IN)

mLAN入力プラグ

(mLAN Patchbay上の“To”に表示)

mLANオーディオ

Input1

Input2

Input3

Input4

Input5

Input6

Input7

Input8

mLAN MIDI

*OUT-A (MIDI OUT-A)

*OUT-B (MIDI OUT-B)

mLANプラグの名称について

mLANプラグの中には、プラグ名の前に*(アスタリスク)が付いているものがあります。

これらのプラグは、mLAN8Pのリアパネルの端子に直結しているものです。

たとえば、「*IN(MIDI IN)」は、mLAN8Pのリアパネルの「MIDI IN」端子に入力された信号をmLANのバス上に出力するmLANプラグです。このプラグはmLAN出力プラグですが、リアパネルのMIDI INを通して入力された信号を出力するので、「*IN」という名称になっています。

「*OUT-A(*MIDI OUT-A)」プラグは、mLAN入力プラグですが、リアパネルのMIDI OUT-Aから出力される信号を入力するので、「*OUT-A」という名称になっています。

左の図は、全体的な信号の流れをイメージで表したものです。

各機器を mLAN8P に接続後、各種信号の入出力先を自由に設定することができます。また、mLAN8P には 12 チャンネルデジタルミキサー機能もありますので、音楽制作の中心として幅広い用途に対応できます。

各種信号の入出力先の設定や、ミキサー機能はmLAN8P 本体でも設定できますが、付属の mLAN Tools を使用することでパソコン上から手軽に、より細かく設定することができます。

(NOTE) mLAN8P のミキサ - 部には「ダイレクトモード」と「ミキサーモード」の2つのモードが用意されています。mLAN Mixer を使用しないときは、機器の入出力をそのまま行なうダイレクトモードになっています。mLAN Mixer を使用すると、ミキサーモードに切り替わります。電源を入れたときにはダイレクトモードで起動します。

*1 エフェクター内蔵 (エフェクターの設定には、付属のアプリケーション mLAN Mixer が必要です)。エフェクターの内容については、mLAN Mixer マニュアル (PDF) のデータリストをご参照ください。デジタルミキサー部の構成については、mLAN Mixer マニュアルのブロックダイアグラムをご参照ください。

*2 COAXIAL IN 端子と OPTICAL IN 端子のどちらを使用するかを選択します (P.33)

*3 mLAN オーディオ入力は、バス (システム) 上の任意の 8 チャンネルから選択できます。

機能ツリー図

MIXER 入力部 (mLAN オーディオ 1 ~ 8Ch)

モードボタン	チャンネルボタン	ページボタンで移動	[+ 1/ENTER]、[- 1/EXIT]、 [VALUE] ダイヤルで設定	参照 ページ
[MIXER 1]	[1] ~ [8]	Input Device/Nickname	入力先 (mLAN オ - ディオ出力プラグ) を選択	24
		Audio In Plug		25
		Link	1-2、3-4...1 1-1 2 の組み合わせで設定を 同じにする	25
		Gain	入力レベルを調整	25
		AUX1	AUX1 へのセンドレベルを調整	26
		AUX2	AUX2 へのセンドレベルを調整	26
		Ch (Channel On/Off)	チャンネルの機能を ON/OFF	26
		Pan (Balance)	定位 (リンクスイッチオン時はバランス) を設定	26
		Level	音量を設定	26

MIXER 入力部 (デジタルオーディオ 9 ~ 10Ch、アナログオーディオ 11 ~ 12Ch) MIXER 出力部 (mLAN オ - ディオ出力)

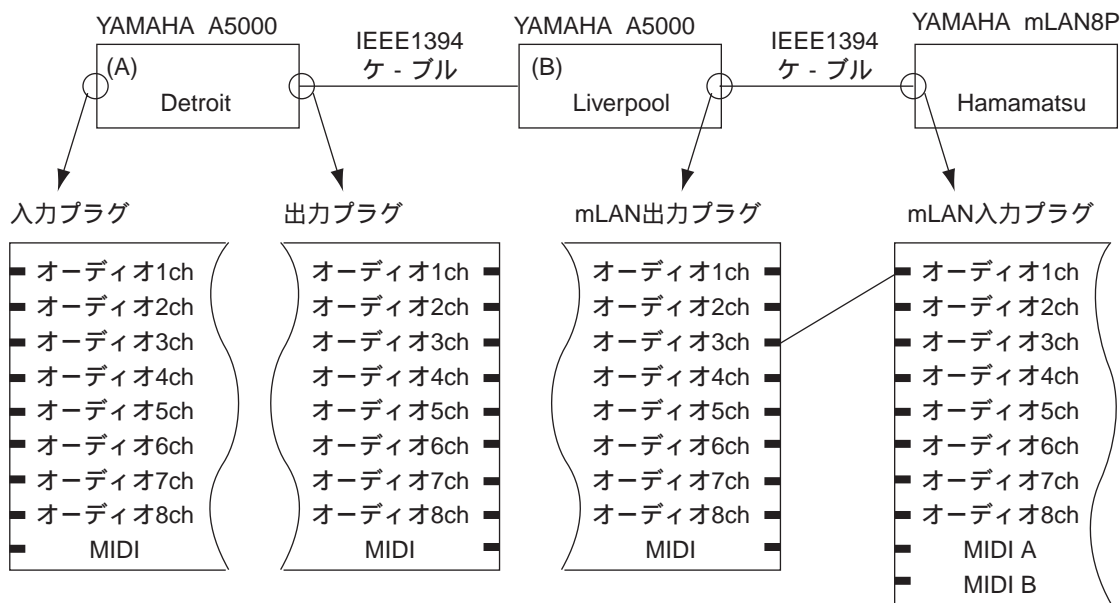
モードボタン	チャンネルボタン	ページボタンで移動	[+ 1/ENTER]、[- 1/EXIT]、 [VALUE] ダイヤルで設定	参照 ページ
[MIXER 2]	[9]/[10]	Optical (Coaxial) Input L/R	表示のみ	24
		Link	1-2、3-4...1 1-1 2 の組み合わせで設定を 同じにする	25
		Gain	入力レベルを調整	25
		AUX1	AUX1 へのセンドレベルを調整	26
		AUX2	AUX2 へのセンドレベルを調整	26
		Ch (Channel On/Off)	チャンネルの機能を ON/OFF	26
		Pan (Balance)	定位 (リンクスイッチオン時はバランス) を設定	26
		Level	音量を設定	26
		[11]/[12]	Analog Input L/R	表示のみ
	Link		1-2、3-4...1 1-1 2 の組み合わせで設定を 同じにする	25
	Gain		入力レベルを調整	25
	AUX1		AUX1 へのセンドレベルを調整	26
	AUX2		AUX2 へのセンドレベルを調整	26
	Ch (Channel On/Off)		チャンネルの機能を ON/OFF	26
	Pan (Balance)		定位 (リンクスイッチオン時はバランス) を設定	26
	Level		音量を設定	26
	[AUX 1 (A1)] [AUX 2 (A2)]		AUX Out Device/Nickname	出力先 (mLAN オ - ディオ入力プラグ) を選択
		AUX Out Plug		27
		Link	AUX1 / 2 の設定を同じにする	27
		Level	音量を設定	28
	[MIX L] [MIX R]	Mix Out Device/Nickname	出力先 (mLAN オ - ディオ入力プラグ) を選択	28
		Mix Out Plug		28
		Balance	Stereo Mix Out のバランスを設定	29
		Level	音量を設定	29

MIDI部 DIRECT OUT ワードクロック
システム部 各種レベルメーター

モードボタン	チャンネルボタン	ページボタンで移動	[+ 1/ENTER]、[- 1/EXIT]、 [VALUE]ダイヤルで設定	参照 ページ	
[MIDI/ UTILITY]	[IN]	MIDI In Device/Nickname	リアパネルの MIDI IN から入力した信号の出力先 (mLAN MIDI 入力プラグ) を選択	29	
		MIDI In Plug		30	
	[OUT-A]	MIDI Out A Device/Nickname	リアパネルの MIDI OUT-A から出力する信号の入力先 (mLAN MIDI 出力プラグ) を選択	30	
		MIDI Out A Plug		30	
	[OUT-B]	MIDI Out B Device/Nickname	リアパネルの MIDI OUT-B から出力する信号の入力先 (mLAN MIDI 出力プラグ) を選択	30	
		MIDI Out B Plug		30	
	[DIRECT]	Digital In L Device/Nickname	Digital In Plug	リアパネルの Digital In から入力した信号の左のチャンネル出力先 (mLAN オーディオ入力プラグ) を選択	31
			Digital In R Device/Nickname	リアパネルの Digital In から入力した信号の右のチャンネル出力先 (mLAN オーディオ入力プラグ) を選択	31
		A/D In L Device/Nickname	A/D In Plug	リアパネルの A/D In から入力した信号の左のチャンネル出力先 (mLAN オーディオ入力プラグ) を選択	31
			A/D In R Device/Nickname	リアパネルの A/D In から入力した信号の右のチャンネル出力先 (mLAN オーディオ入力プラグ) を選択	31
		[WCLK]	Wordclock Source	ワードクロックのタイプを設定	32
			Group1 Wordclock Master	ワードクロックマスターを設定	32
		[SYS]	Digital Input Source	Optical/Coaxial を選択	33
			Digital Output Source	リアパネルの DIGITAL OUT から出力する信号を設定	33
	Analog Output Source		リアパネルの ANALOG OUT から出力する信号を設定	33	
	Set Nickname		Nickname を編集	34	
	Select Device/Nickname		Nickname を編集する機器を選択	34	
	Set Nickname		Nickname を設定	34	
	Set Root		mLAN8P をルートに設定	35	
	Net Traffic		ネットワーク上のデータ量を表示	35	
	Factory Set		mLAN8P の設定を工場出荷時に戻す	35	
	Confirmation		機器を接続する際の設定	35	
	[METER]	All Ch	全チャンネルをレベルメーター表示	36	
		Ch1 ~ 8、Opti (Coax) L/R、A/D L/R	入力信号をレベルメーター表示	36	
		St Mix L/R、AUX 1/2	出力信号をレベルメーター表示	36	
		MIDI IN、OUT-A、OUT-B	MIDI 信号を表示	36	

mLAN 機器間での入出力の設定 (操作の流れ)

mLAN8P と各機器をケーブルで接続後、実際に配線し直すことなく各機器間の入出力信号を自由に設定 / 接続できます。入出力とも接続に関しては共通の作業を行いません。



図では YAMAHA A5000(B) のオーディオ 3Ch(チャンネル) からの出力信号を、YAMAHA mLAN8P のオーディオ 1Ch(Input1) で入力しています。各機器には、左からそれぞれ Detroit、Liverpool、Hamamatsu とニックネームが設定されています。

この接続を mLAN8P 上で設定する手順は以下のとおりです。この例以外の接続については、各手順の NOTE をご参照ください。

1. [MIXER1] を押して、MIXER1 モードに入ります。前回、そのモードで選択されていたチャンネルのパラメーターが表示されます。



(NOTE) 上記の例以外の場合は、設定したい mLAN 入力 / 出力に応じて、以下のモードを選択してください。詳しくは、機能ツリー図 (P.18、19) をご参照ください。

mLAN8P への入力

- Input 1 ~ 8...[MIXER1]
- Input 9 ~ 12...[MIXER2]
- MIDI Out A/B...[MIDI/UTILITY]

他の mLAN 機器への出力

- AUX1(A1)、AUX2(A2)、Mix Out L(L)、Mix Out R(R)...[MIXER2]
- Digital In L、Digital In R、A/D In L、A/D In R、MIDI In...[MIDI/UTILITY]

2. mLAN8P の 1 チャンネル (Input 1) に入力する信号を設定するので、チャンネルボタン [1] を押します。



(NOTE) 上記の例以外の場合は、設定したい入力 / 出力に応じて、チャンネル / ファンクションボタンを選択します。詳しくは、機能ツリー図 (P.18、19) をご参照ください。

3. Input Device、Input Nickname、Input Device/Nickname のいずれかの画面が表示されるまで、[◀PAGE] を押します。



(NOTE) Vender (供給者) と Module (モデル) を合わせて Device と言います (vender 名は省略されることもあります)

Device/Nickname の表示

現在選択されているモードボタンを押すことにより Device と Nickname の表示を次のように切り替えることができます。

- Device/Nickname
- Device
- Nickname

(NOTE) リアパネルから入力したオ - ディオ信号の出力先 (mLAN 入力プラグ) を設定する場合は [◀ PAGE ▶] で入力ソースを選択します。MIDI の設定をする場合は、ここでの手順は必要ありません。

mLAN 機器間での入出力の設定（操作の流れ）

- 4-1. [+1/ENTER]、[-1/EXIT](または [VALUE] ダイアル) を使って、From: の右側に mLAN8P の Channel1 に接続する機器を表示させます。選択中の機器の Device/Nickname が点滅します。

```
/ Input Device
/ [ ]From:YAMAHA/A5000
```

(NOTE) 出力先を設定している場合は、From: の表示が To: に変わります。

- 4-2. 例のように、同じ機種が複数接続されている場合、「Device」の欄には、どちらも「YAMAHA A5000」と表示されるので、(A) と (B) の区別が付きません。このように「YAMAHA A5000」とだけ表示されている場合は、モードボタンを押して、選択した機器の Nickname を表示させます。

(NOTE) あらかじめ、各機器に Nickname を設定しておく必要があります (P.34)。工場出荷時には仮の Nickname が設定されています。下 4 桁の英数字は、各デバイスのユニーク ID(16 進数) を表します。

```
/ Input Nickname
/ [ ]From: Detroit
```

5. 「Liverpool(または A5000/Liverpool)」を選択し、[PAGE ▷] を押します。Audio In Plug の設定画面が表示されます。

```
/ Audio In Plug
/ [ ]From: Unconnected
```

6. [+1/ENTER]、[-1/EXIT](または [VALUE] ダイアル) を使って、From: の右側に mLAN8P の Channel1 に接続する mLAN プラグを表示させます。ここでは「チャンネル 3(AS3)」を表示させます。

(NOTE) 出力先を設定している場合は、From: の表示が To: に変わります。

7. mLAN プラグ名が数回点滅したあと、接続の設定を変更しても良いかどうかの確認の画面が表示されます。

接続を確定するために [ENTER] を押します。

```
 / Connection was modified
 / Press "ENTER" Key
```

(NOTE) キャンセルする場合は、[EXIT] を押します。

(NOTE) UTILITY の Confirmation の設定が Off の場合、確認の画面は表示されず、mLAN プラグ名が数回点滅したあと自動的に接続を確定します。

以上で接続が完了しました。

(NOTE) 出力の設定の場合、[PAGE ▷] を押すことで、続けて複数の出力先 (mLAN 入力プラグ) を設定することができます。その場合、同様の手順を繰り返して接続先を選択します。

(NOTE) 付属の mLAN Patchbay を使用すると、ドラッグ & ドロップ機能を使って、視覚的に接続の設定をすることができます。

(NOTE) 接続する機器は「Device」と「Nickname」のどちらからでも選択できます。

各モードの機能

Mixer 入力部の設定 [Mixer1/2] - [1] ~ [12]

各機器からの mLAN オーディオ入力信号を mLAN8P に接続します。また Mixer 機能の各種パラメーターを設定します。

[1] ~ [8] は mLAN で接続されている機器から任意の 8 チャンネル、[9][10] は Digital In、[11][12] は A/D In からの入力をそれぞれ設定します。

(NOTE) Digital In の Optical/Coaxial の選択は [UTILITY] で行ないます (P.33)。

1. 設定するチャンネルに応じて [Mixer1] または [Mixer2] を押します。
2. 設定するチャンネルボタンを押します。[Mixer1] では [1] ~ [8]、[Mixer2] では [9] ~ [12] が選択できます。
3. [◀ PAGE ▶] で設定するパラメーターを選択します (設定するパラメーターにカーソル “▶” を合わせます)。

(NOTE) 現在選択中のチャンネルボタンを押すと設定画面をページごとに切り替えることができます (Input Device/Nickname、Audio In Plug 設定時を除く)。

4. [+1/ENTER][-1/EXIT]、または [VALUE] ダイアルで機器名やパラメーター値などを選択、設定します。

【Input Device/Nickname】

チャンネルボタンで選択したチャンネルへ接続する機器を、mLAN 上に接続されている機器の「Device/Nickname」で設定します。機器を接続しない場合は「Unconnected」に設定します。

A5000 (Nickname=Liverpool) が接続されているとき

```
 / Input Device/Nickname
 / [ ] From: A5000/Liverpool
```

何も接続されていないとき

```
 / Input Device/Nickname
 / [ ] From: Unconnected
```

[Mixer2] - [9] ~ [12](Digital In、A/D In) ではこの画面の表示内容が変わります。

A/D Input L([Mixer2] - [11]) のとき

```
 / / Analog Input L Channel
 / / [ ]
```


【Audio In Plug】

選択した機器が持つ「mLAN Plug(仮想的な端子)」から、入力する「Plug」を選択、接続します。適切な mLAN Plug がない場合は「No Source(Destination)Plug」と表示されます。

[Mixer2] - [9] ~ [12](Digital In、A/D In)ではこの画面は表示されません。

A5000 の Assignable 1 が接続されているとき

```

/ Audio In Plug
/ [ ] From: AS1 OUT
  
```

適切な Plug がなかったとき

```

/ Audio In Plug
/ [ ] From: No Source Plug
  
```

【Link (リンクスイッチ)】

On に設定すると、1-2,3-4,5-6,7-8,9-10,11-12 という組み合わせで、2つのチャンネルを「Input Device/Nickname」と「Audio In Plug」を除き(以下の項目)、すべて同じ設定にします。

設定値 : On、Off

```

/ [ ] Link Gain
      On + 6dB
  
```

(NOTE) リンクスイッチを On にしたときのチャンネルの設定値を使用します。
リンクスイッチ On のときは Pan は Balance に変更されます。

【Gain(ゲイン)】

入力信号を 6dB 単位で上げ下げします。

設定値 : -6dB、0dB、+6dB、+12dB、+18dB、+24dB

```

/ [ ] Link Gain
      On + 6dB
  
```

各モードの機能

【Aux1/2】

入力されたオーディオ信号を、AUX1/2 へ送る際の音量を設定します。送られた信号は、AUX1/2 とも mLAN 上の任意のチャンネルに割り当てることができます。

設定値：- dB(送り音量最小) ~ +6dB(送り音量最大)

/	▶Aux1	Aux2
/ 0	+ 5.8dB	+ 6.0dB

【Ch (チャンネル オン / オフ)】

チャンネル全体の機能を On/Off します。Off にするとそのチャンネルはミュートされます。

設定値：On、Off

/	▶Ch	Pan	Level
/	On	Center	- 4.6dB

【Pan/Balance(パン / バランス)】

チャンネルごとの定位を設定します。L 方向に数値を上げると定位が左方向に移動します。R 方向に数値を上げると定位が右方向に移動します。

リンクスイッチが On のときは表記が Balance に変わり、奇数、偶数チャンネルとも同じ値になります。

設定値：L63 ~ R63(Pan/Balance 共)

/	Ch	▶Pan	Level
/	On	Center	- 4.6dB

リンクスイッチが On のとき

/	Ch	▶Balance	Level
/ 0	On	Center	- 4.6dB

【Level(レベル)】

入力された信号の出力へ送る音量をチャンネルごとに設定します。

設定値：- dB(送り音量最小) ~ 0dB(送り音量最大)

/	Ch	Pan	▶Level
/	On	Center	- 4.6dB

Mixer 出力部の設定 [Mixer2] - [AUX1/2]

Mixer 入力部で設定した AUX1/2 への信号を、mLAN 上の任意のチャンネルに出力します。

1. [Mixer2] を押します。
2. [AUX1] または [AUX2] を押します。
3. [◀ PAGE ▶] で設定するパラメーターを選択します。
4. [+1/ENTER][-1/EXIT]、または [VALUE] ダイアルで機器名やパラメーター値などを設定します。

【AUX Out Device/Nickname】

AUX 信号の出力先を、mLAN 上に接続されている機器の「AUX Out Device/Nickname」で設定します。機器を接続しない場合は「Unconnected」に設定します。

A 1 To: A5000/Liverpool

【AUX Out Plug】

選択した機器が持つ「mLAN Plug(仮想的な端子)」から、AUX 信号を送る「Plug」を選択、接続します。適切な mLAN Plug が存在しない場合は「No Source(Destination)Plug」と表示されます。


A 1 To: AD-L IN

(NOTE) 出力先は複数選択が可能です。複数接続してある場合、「Device/Nickname」「Plug」では画面左下に通し番号が表示され、[PAGE▶] を押すたびに接続数がカウントされながら各 Module を順次表示します。

A 1 To: Unconnected

【Link (リンクスイッチ)】

On に設定すると、AUX1 と AUX2 の Level の設定値を同じにします。設定値はリンクスイッチを On にしたチャンネルのものを使用します。

LINK スイッチが On のときは画面左下に「」が表示されます。

設定値 : On、Off

【Level】

AUX 信号の出力先へ送る音量を設定します。

設定値：0dB ~ - dB



Mixer 出力部の設定 [Mixer2] - [L][R]

Mixer 入力部で設定したオーディオ入力信号を mLAN 上の任意のチャンネルに出力します。

1. [Mixer2] を押します。
2. [L] または [R] を押します。
3. [◀ PAGE ▶] で設定するパラメーターを選択します。
4. [+1/ENTER][-1/EXIT]、または [VALUE] ダイアルで機器名やパラメーター値などを設定します。

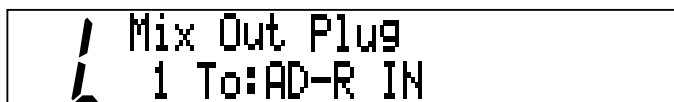
【Mix Out Device/Nickname】

Mixer 入力部からのオーディオ信号の出力先を、mLAN 上に接続されている機器の Device/Nickname で設定します。Module を接続しない場合は「Unconnected」に設定します。



【Mix Out Plug】

選択した機器が持つ「mLAN Plug(仮想的な端子)」から、信号を送る「Plug」を選択、接続します。適切な mLAN Plug が存在しない場合は「No Source(Destination)Plug」と表示されます。



(NOTE) 出力先は複数選択が可能です。複数接続してある場合、「Device/Nickname」「Plug」では画面左下に通し番号が表示され、[PAGE▶] を押すたびに接続数がカウントされながら各 Module を順次表示します。



【Balance (アウットバランス)】

ステレオ出力するオーディオ信号の定位バランスを設定します。

初期値は 0(Center) で、L 方向に数値を上げると定位が左方向に移動します。R 方向に数値を上げると定位が右方向に移動します。[L][R] どちらで設定してもどちらも同じ値になります。

設定値 : L63 ~ R63

【Level】

ステレオ出力の音量を設定します。

設定値 : 0dB ~ - dB

L	Balance	Level
L	Center	-49.3dB

MIDI 部の設定

リアパネルの MIDI IN/OUT 端子に接続されている機器と mLAN 機器とを接続します。

1. [MIDI/UTILITY] を押します。
2. [IN] または [OUT-A/B] を押します。
3. [◀ PAGE ▶] で設定するパラメーターを選択します。
4. [+1/ENTER][-1/EXIT]、または [VALUE] ダイアルで機器名やパラメーター値などを設定します。

[MIDI/UTILITY] - [IN]

リアパネルの MIDI IN 端子に接続されている機器からの MIDI 信号を、mLAN 上の任意のチャンネルに出力します。

【MIDI In Device/Nickname】

MIDI IN 端子に接続されている機器からの MIDI 信号の出力先を、mLAN 上に接続されている機器の Device/Nickname で設定します。機器を接続しない場合は「Unconnected」に設定します。

MIDI In Device/Nickname
1 To:A5000/Liverpool

【MIDI In Plug】

選択した機器が持つ「mLAN Plug(仮想的な端子)」から、MIDI 信号を送る「Plug」を選択、接続します。適切な mLAN Plug が存在しない場合は「No Source(Destination)Plug」と表示されます。

```
MIDI In Plug
1 To:MIDI IN
```

(NOTE) 出力先は複数選択が可能です。複数接続してある場合、「Device/Nickname」「Plug」では画面左下に通し番号が表示され、[PAGE▶] を押すたびに接続数がカウントされながら各 Module を順次表示します。

[MIDI/UTILITY] - [OUT-A/B]

mLAN 上の任意のチャンネルからの MIDI 信号を、リアパネルの MIDI OUT A/B 端子に接続されている機器に出力します。

【MIDI Out A/B Device/Nickname】

MIDI OUT A/B 端子に MIDI 信号を出力する機器を、mLAN 上に接続されている機器の Device/Nickname で設定します。機器を接続しない場合は「Unconnected」に設定します。

```
MIDI Out A Dev/Nickname
From:A5000/Liverpool
```

【MIDI Out A/B Plug】

選択した機器が持つ「mLAN Plug(仮想的な端子)」から、MIDI 信号を送る「Plug」を選択、接続します。適切な mLAN Plug が存在しない場合は「No Source(Destination)Plug」と表示されます。

```
MIDI Out A Plug
From:MIDI OUT
```

UTILITY 部

Digital In/Out、A/D In、D/A Out やワードクロック、システムなどの設定を行ないます。

[MIDI/UTILITY] - [DIRECT (ダイレクトアウト)]

Digital In、A/D In からの信号を、Mixer を通さず直接 mLAN 上の任意のチャンネルに出力します。

1. [MIDI/UTILITY] を押します。
2. [DIRECT] を押します。
3. [◀ PAGE ▶] で設定するパラメーターを選択します。
4. [+1/ENTER][-1/EXIT]、または [VALUE] ダイアルで機器名やパラメーター値などを設定します。

【Digital In (A/D In) L/R Device/Nickname】

Digital In、A/D In からの信号の出力先を、mLAN 上に接続されている機器の Device/Nickname で設定します。機器を接続しない場合は「Unconnected」に設定します。

【Plug】

選択した機器が持つ「mLAN Plug(仮想的な端子)」から、信号を送る Plug を選択、接続します。適切な mLAN Plug が存在しない場合は「No Source(Destination)Plug」と表示されます。

(NOTE) 出力先は複数選択が可能です。複数接続してある場合、「Device/Nickname」「Plug」では画面左下に通し番号が表示され、[PAGE▶] を押すたびに接続数がカウントされながら各 Module を順次表示します。

[MIDI/UTILITY] - [WCLK]

WC(ワードクロック)に関する設定を行ないます。各ノードの WC 同期能力や、WC マスター/スレーブ、同期周波数(Fs44.1kHz/Fs48kHz)などを設定します。

1. [MIDI/UTILITY] を押します。
2. [WCLK] を押します。
3. [◀ PAGE ▶] で設定するパラメーターを選択します。
4. [+1/ENTER][-1/EXIT]、または [VALUE] ダイアルで機器名やパラメーター値などを設定します。

【Wordclock Source】

mLAN8P 本体のワードクロックの設定方法を選択します。Manual を選択した場合は、ワードクロックマスターになる機器を、mLAN 上に接続されている機器の Device/Nickname で設定します。

設定値 : Internal 44k、Internal 48k、External Coaxial/Optical、
Auto、Group 1 Master、Manual

内部 44.1k が選択されているとき。

```
// Wordclock Source
// Internal 44k
```

(NOTE) デフォルトでは Auto が選択されています。
Auto、Manual に設定する場合は、実際のマスタ - になっている機器の名前が表示されます。

選択した設定が数回点滅したあと、自動的に確認の画面に変わります。

```
// Are You Sure?
// Press "ENTER" Key
```

設定の変更を実行する場合は [+1/ENTER] を、キャンセルする場合は [-1/EXIT] を押します。

【Group 1 Wordclock Master】

バス上の一つの機器をマスター、他の機器をすべてスレーブに設定することができます。
[+1/ENTER] または [-1/EXIT] を押して、ワードクロックマスターにする機器を、mLAN 上に接続されている機器の Device/Nickname で選択します。

```
// Group1 Wordclock Master
// A5000/Liverpool
```

選択された機器の Device/Nickname が数回点滅したあと、自動的に確認の画面に変わります。

```
// Are You Sure?
// Press "ENTER" Key
```

設定の変更を実行する場合は [+1/ENTER] を、キャンセルする場合は [-1/EXIT] を押します。

[MIDI/UTILITY] - [SYS]

システムに関する設定を行ないます。

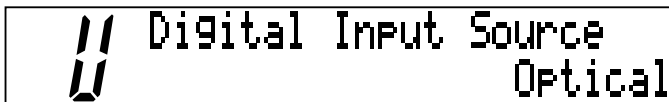
1. [MIDI/UTILITY] を押します。
2. [SYS] を押します。
3. [◀ PAGE ▶] で設定するパラメーターを選択します。
4. [+1/ENTER][-1/EXIT]、または [VALUE] ダイアルで機器名やパラメーター値などを設定します。

【Digital Input Source】

mLAN8P リアパネルの Optical/Coaxial in から入力する Digital In を選択します。

設定値：Optical、Coaxial

Optical が選択されているとき



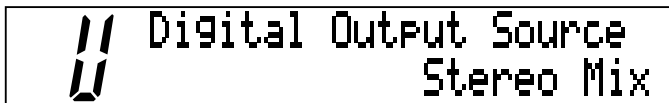
U Digital Input Source
Optical

【Digital/Analog Output Source】

リアパネルの ANALOG OUT と Digital Out へ出力する信号をそれぞれ設定します。

設定値：Stereo Mix、Aux1/2、Digital In、A/D In

Stereo Mix が選択されているとき



U Digital Output Source
Stereo Mix

(NOTE) ヘッドフォン (PHONES) へは ANALOG OUT に設定したものが出力されます。

【Set Nickname】

[Select Device/Nickname]

[Set Nickname] のページで [+1/ENTER] を押すと表示されます。mLAN 上に接続されている機器から「Nickname」を編集する機器を Device/Nickname で選択します。

Nickname を編集する機器を [+1/ENTER] [-1/EXIT]、または [VALUE] ダイアルで選択し、Device/Nickname を点滅させます。

[PAGE ▷] を押すと以下の画面が表示されます。



```
U Set Nickname
   "Liverpool"
```

[◀ PAGE ▷] でカーソルを移動し、[+1/ENTER] [-1/EXIT]、または [VALUE] ダイアルで文字を変更します。

カーソルを右端まで移動し、[PAGE ▷] を押すと Confirm 画面が表示されます (この画面は UTILITY での Confirmation の設定の On/Off に関係なく表示されます)。



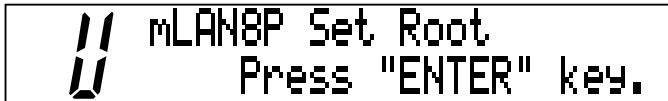
```
U Press "ENTER" key
   "Liverpool"
```

[+1/ENTER] を押すと設定した Nickname が有効になります。

[-1/EXIT] を押すと設定は変更されずに画面を抜けます。

【mLAN8P Set Root】

mLAN8P を mLAN ネットワーク上のルートに設定します。

A rectangular menu screen with a black border. On the left side, there are two vertical bars. To the right of the bars, the text reads "mLAN8P Set Root" on the top line and "Press 'ENTER' key." on the bottom line.

```
|| mLAN8P Set Root
    Press "ENTER" key.
```

[+1/ENTER] を押すと、設定を実行しても良いかどうかの確認の画面が表示されます。
もう一度 [+1/ENTER] を押すと mLAN8P をルートに設定します。
[-1/EXIT] を押すと設定は変更されずに画面を抜けます。

【Net Traffic】

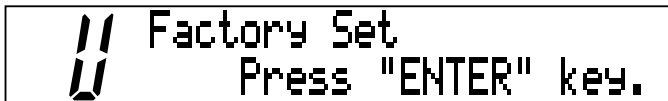
ネットワーク上でどれだけのデータ量を扱っているかをグラフ表示します。

A rectangular menu screen with a black border. On the left side, there are two vertical bars. To the right of the bars, the text reads "Net Traffic" on the top line and "0% |" on the bottom line.

```
|| Net Traffic
    0% |
```

【Factory Set】

mLAN8P の設定を工場出荷時の状態にします。

A rectangular menu screen with a black border. On the left side, there are two vertical bars. To the right of the bars, the text reads "Factory Set" on the top line and "Press 'ENTER' key." on the bottom line.

```
|| Factory Set
    Press "ENTER" key.
```

[+1/ENTER] を押すと、設定を実行しても良いかどうかの確認の画面が表示されます。
もう一度 [+1/ENTER] を押すと mLAN8P の設定を工場出荷時の状態にします。
[-1/EXIT] を押すと設定は変更されずに画面を抜けます。

(NOTE) Nickname の設定は工場出荷時の状態にしません。

【Confirmation】

mLAN8P と入出力信号を接続するときの条件を設定します。

設定値 : On、Off

A rectangular menu screen with a black border. On the left side, there are two vertical bars. To the right of the bars, the text reads "Confirmation" on the top line and "On" on the bottom right.

```
|| Confirmation
                                On
```

On にすると接続先を確定したときに接続します。
Off にすると接続先を選択した時点で接続されます。

[MIDI/UTILITY] - [METER]

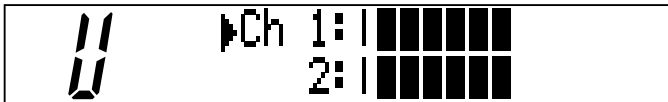
各種レベルメーターを表示します。クリップ時にはCマークが付きま

1. [MIDI/UTILITY]を押します。
2. [METER]を押します。
3. [◀ PAGE ▶] で表示するレベルメーターのグループ (All Ch、インプット、アウトプット、MIDI) を選択します。
4. [+1/ENTER][-1/EXIT]、または[VALUE]ダイヤルで表示するチャンネルを選択します。
All Ch(オールチャンネル)の場合

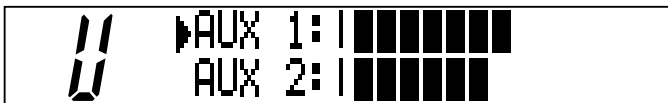


ミキサー入力部に入力があるかどうかを、全チャンネル同時に見ることができます。また、ミキサー部からの出力も確認できます。LCDの左から、Ch1 ~ 8(Input1 ~ 8)、Op/Co(Digital In)、Ad(A/D In)、Mix/AUX を表示します。Mix(ステレオミックス出力)、AUXの切り替えは、[+1/ENTER][-1/EXIT]、または[VALUE]ダイヤルで行ないます。

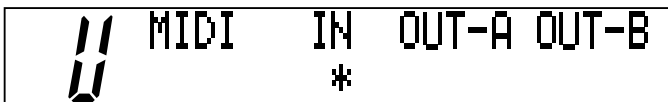
インプットの場合
e.g.Ch1 と Ch2



アウトプットの場合
e.g.AUX1/2



MIDI の場合



MIDI 信号の送受信時には、“* (アスタリスク)” が点滅表示されます。

(NOTE) リアパネルの MIDI IN から MIDI 信号を入力していても、mLAN8P から他の mLAN 機器に mLAN MIDI/ オ - ディオ信号を出力していない場合は、“*” は表示されません。ただし mLAN8P がワ - ドクロックマスターの場合は、mLAN MIDI/ オ - ディオ信号を出力している、していないにかかわらず、MIDI 信号が入力された時点で、“*” が点滅表示されます。

LED/LCD メッセージ

LED メッセージ

トップパネル LED	機能	状態
LOCK(left)	Digital In から入力した信号のロックステータスを表示	緑 ... ロック、消灯 ... アンロック
LOCK(right)	mLAN 信号のロックステータスを表示	緑 ... ロック、消灯 ... アンロック
DATA	バス上の機器の接続 / 取り外しやコネクションの変更、ワードクロックの非同期などにより、音が途切れたときの報告	赤 ... 音が途切れた
RT/ERR	ルート / エラーの表示	赤 / 橙 ... エラー発生、緑 ... 本体がルート

Identify 時には、4 つの LED が緑になり、点滅する

リアパネル LED	機能	状態
mLAN1 ~ 3	ケーブルを抜いたとき、接続先以外で音が途切れるかどうかを示す	赤 ... 音が途切れる 緑 ... 音が途切れない (リーフノード)
RT/ERR	ルート / エラーの表示	赤 / 橙 ... エラー発生、緑 ... 本体がルート
ACTIVE	中継機能の状態を表示	青 ... 中継機能が働いている

エラーメッセージ

リアパネル LED 表示				LCD ディスプレイ	原因	対処
3	2	1	RT			
		赤	橙	1394: Topological Loop	機器の接続 (トポロジー) がループを形成している	機器の接続でループを形成している部分がないか調べる
	赤		橙	1394: Cycle Lost	バス上に Cycle Start Packet が送信されていない (Audio/MIDI のデータが送信できない)	正常に動作していない機器を取り除く
	赤	赤	橙		正常に動作していない機器がバス上に存在する	正常に動作していない機器を取り除く
		緑	橙	Over 16 Hops Limit	ホップ数が 17 以上になっている	ホップ数を確認する
	緑		橙		バスに供給されている電源が不足している	バスにパワープロバイダーを追加するか、パワーコンシューマーを取り除く
		赤	赤	MIDI: Framing Error	MIDI IN の転送速度が不適切	MIDI の転送速度の設定を確認する
	赤		赤	MIDI: Rx Buffer Full	MIDI の転送レート以上のレートで送信されている	送信側の機器が正常に動作しているかを確認する
			赤		何らかの原因で音が途切れた。またはワードクロックが同期していない	本体と受信ソースのワードクロックの設定を確認する

仕様

mLAN	IEEE1394 ハイパフォーマンスシリアルバス データレート S200、アイソクロナスリソースマネージャー、バスマネージャー、コネクションマネージャー IEC61883-6 Audio and Music Protocol 準拠 デジタルオーディオ 8in/8out、MIDI 2in/1out
サンプリングレート	44.1kHz、48kHz
アナログ入力/出力	アナログ入力 (A/D コンバーター) 周波数特性：5Hz-20KHz(fs=44.1KHz) 5Hz-21KHz(fs=48KHz) アナログ出力 (D/A コンバーター) 周波数特性：5Hz-20KHz(fs=44.1KHz) 5Hz-21KHz(fs=48KHz) ダイナミックレンジ 95dB(JIS-C) 全高調波歪率 0.003%(0dBm) 未満 再大出力 +3dBV(+5dBm)
機能	Mixer Input (x12) Link (*1) ATT、Gain (*1) Phase、Delay (*2) EQ(4Band)(*2) Dynamics (*2) AUX Send 1、2 (*1) Pre/Post 1、2、Channel on/off (*1) Meter (*1) Pan (*1) Fader (*1) Output Effect Return (level、pan、mute) AUX Master 1、2 (*1) AUX Link (*1) Level (*1) Balance (*1) Effect Effect type/parameter *1 mLAN8P 本体で設定できるもの *2 最大 8ch
コントロール	INPUT VOLUME、電源スイッチ (PUSH ON/STANDBY) PHONES VOLUME、Mode ボタン (MIDI/UTILITY、MIXER 1 & 2) Channel/Function ボタン (x8) PAGE ボタン (◀ / ▶) +1/ENTER ボタン、-1/EXIT ボタン、VALUE ダイアル、CONTRAST ノブ
接続端子	PHONES、ANALOG IN (1/L、2/R) ANALOG OUT (1/L、2/R) MIDI IN、MIDI OUT (A、B) COAXIAL IN/OUT、OPTICAL IN/OUT、SERIAL I/O、mLAN IEEE1394 (1、2、3) DC IN
ディスプレイ	
トップパネル	LCD (24 x 2 行 + 2 桁 [7 セグメント] バックライト) LOCK LED (x2) RT/ERR LED、DATA LED
リアパネル	mLAN 1/2/3 LED、ACTIVE LED、RT/ERR LED
電源	電源アダプタ - PA-5C
消費電力	17 W
外形寸法	220(W) x 206(D) x 71(H) [mm]
質量	2.0kg

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合があります。

索引

記号

+1/ENTER、-1/EXIT インクデッキボタン	9
◁ PAGE ▷ (ページ) ボタン	9

A

ACTIVE LED	11
ANALOG IN/OUT (アナログイン / アウト) 端子	10
Auto	32
AUX1/2	26、27

C

CHANNEL ON/OFF	26
Channel(チャンネル)	20
COAXIAL IN/OUT (コアキシャルイン / アウト) 端子	11
Confirmation	35

D

DC IN(ディーシーイン) 端子	10
Digital Input Source	33
Digital/Analog Output Source	33
DIRECT	31

E

External Coaxial/Optical	32
--------------------------------	----

F

Factory Set	35
Fs44.1kHz	31
Fs48kHz	31

G

Gain(ゲイン)	25
Group1 Master	32
Group1 Wordclock Master	32

H

HOST SELECT スイッチ	12
------------------------	----

I

IEEE1394	6、7
INPUT VOLUME (インプットボリューム)	9
Internal44k	32
Internal48k	32

L

LCD(液晶ディスプレイ)	9
LED	9
Level(レベル)	26
LINK (リンクスイッチ)	25

M

Manual	32
METER	36
MIDI IN/OUT (ミディイン / アウト) 端子	10
MIDI (ミディ)	4、7、9、12、29
Mixer1(ミキサー 1) ボタン	9
Mixer2 ボタン	9
mLAN Mixer	4、17
mLAN Patchbay	4
mLAN Tools	4
mLAN(IEEE1394) 端子	11
mLAN8P Set Root	35

N

Net Traffic	35
-------------------	----

O

ON/STANDBY(オン / スタンバイ)	9
OPTICAL IN/OUT (オプティカルイン / アウト) 端子	11

P	
<hr/>	
PAN/BALANCE(パン / バランス)	26
PHONE VOLUME (ヘッドフォンボリューム)	9
PHONES(フォーン)ジャック	9
R	
<hr/>	
RS232C 端子	13
RT/ERR LED	11
S	
<hr/>	
SERIAL I/O (シリアルイン / アウト) 端子	10、13
SYS	33
U	
<hr/>	
UTILITY(ユーティリティー)	9
V	
<hr/>	
VALUE(バリュー)ダイヤル	9
W	
<hr/>	
WCLK	31
ア	
<hr/>	
アナログオ - ディオ信号	17
カ	
<hr/>	
クリップ	36
サ	
<hr/>	
サンプリングレ - トコンバ - タ -	6
タ	
<hr/>	
チャンネル / ファンクションボタン	9
定位	26
デジタルオ - ディオ信号	17
デジタルオ - ディオ用ピンケーブル	11
同期周波数	31

ハ	
<hr/>	
光ケーブル	11
マ	
<hr/>	
モードボタン	9
ワ	
<hr/>	
ワードクロック	31

MEMO

ユーザーサポートサービスのご案内

ヤマハデジタル商品は、常に新技術 / 高機能を搭載し技術革新を進める一方、お使いになる方々の負担とわずらわしさを軽減できるような商品づくりを進めております。また取扱説明書の記載内容も、よりわかりやすく使いやすいものにするため、研究 / 改善いたしております。

しかし、一部高機能デジタル商品では、取扱説明書だけでは説明しきれないほどのいろいろな知識や経験を必要としてしまうものがあります。

実際の操作に関して、基本項目は取扱説明書に解説いたしておりますが、「記載内容が理解できない」、「手順通りに動作しない」、「記載が見つからない」といったさまざまな問題が起こる場合があります。

そのようなお客様への一助となるよう、弊社ではデジタルインフォメーションセンターを開設いたしております。

お気軽にご利用いただきますようご案内申し上げます。

お問い合わせの際には、「製品名」、「製造番号」、「ご住所」、「お名前」、「電話番号」をお知らせください。

ヤマハデジタルインフォメーションセンター

TEL : 053-460-1666

受付日 : 月曜日～金曜日(祝日および当社の休業日を除く)

受付時間 : 10:00～12:00 / 13:00～17:00

デジタル楽器に関するお問い合わせ窓口

PA・DMI 事業部

DE 営業部 〒430-8650 浜松市中沢町 10-1 TEL (053) 460-2432

EM 営業統括部

北海道営業所 〒064-8543 札幌市中央区南 10 条西 1 丁目 1-50
ヤマハセンター内 TEL (011) 512-6113

仙台営業所 〒980-0804 仙台市青葉区大町 2-2-10 TEL (022) 222-6147

営業推進課 〒108-8568 東京都港区高輪 2-17-11 TEL (03) 5488-5476

名古屋営業所 〒460-8588 名古屋市中区錦 1-18-28 TEL (052) 201-5199

大阪事業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場 3-12-9
心斎橋プラザビル東館 TEL (06) 6252-5231

九州営業所 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前 2-11-4 TEL (092) 472-2130

ヤマハデジタル楽器・DTM 製品ホームページ <http://www.yamaha.co.jp/product/decbx/>

ヤマハマニュアルライブラリー <http://www2.yamaha.co.jp/manual/japan/>

ニフティサーブ 「GO FMIDIVA」コマンドで FMIDIVA に入ると、ヤマハデジタル楽器および DTM 製品のフォーラムがございます。

電子会議 #16 ヤマハ Synth & CBX 情報ボード
#17 ヤマハ Synth & CBX ユーザーズカフェ
#18 ヤマハ Synth & CBX 相談室
データライブラリー #8 ヤマハ / デジタル CBX

所在地・電話番号などは変更されることがあります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後 8 年です。

持込み修理のお願い

まず別紙の「故障かな?と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ本機をご持参ください。

製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点 (修理受付) および修理品お持ち込み窓口

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南 10 条西 1 丁目 1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6108
仙台サービスステーション	〒984-0015	仙台市若林区卸町 5-7 仙台卸商共同配送センター 3F	TEL (022) 236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月 1184	TEL (044) 434-3100
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町 200 ヤマハ (株) 和田工場内	TEL (053) 465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町 2-1-2 ヤマハ (株) 名古屋流通センター 3F	TEL (052) 652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下 1-16 ヤマハ (株) 千里丘センター内	TEL (06) 6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町 8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL (087) 822-3045
広島サービスステーション	〒731-0113	広島市安佐南区西原 6-14-14	TEL (082) 874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前 2-11-4	TEL (092) 472-2134
[本社] CSセンター	〒435-0016	浜松市和田町 200 ヤマハ (株) 和田工場内	TEL (053) 465-1158

所在地・電話番号などは変更されることがあります。

ヤマハ株式会社



この取扱説明書は
エコバルブ(ECF:無塩素系漂白バルブ)
を使用しています。



この取扱説明書は
エコマーク認定の
再生紙を使用しています。



この取扱説明書は
大豆油インクで印刷しています。